



秘密保護法廃棄へ闘いの輪を広げよう

宮澤弘幸 追悼・顕彰のつどい 140人参加

「みなさん頑張ってくださいね。私みたいな人間を再び作らないために」――。

宮澤弘幸の妹・秋間美江子さん（87歳）の声が会場に切々と鋭く流れました。宮澤弘幸67回目の命日である2月22日、菩提寺の新宿・常圓寺のホールは詰めかけた140人余でいっぱいとなりました。

『宮澤弘幸追悼・顕彰のつどい―悪夢再来の秘密保護法を許さない』は、新たな熱気呼び込み、秘密保護法の施行を許さず、廃棄させるために自主的自覚的な運動を発展させることを確認しました。

秋間美江子さんが気迫込めて訴え

秋間さんは、この集会参加のために、14時間も飛行機に乗り詰めでコロラドから帰国しました。直前まで体調を崩しての療養中であり、命がけの参加です。集会に先立って会場に隣接した宮澤家の墓にお参りし、これには秋間さんと30年近く交流を続けている山野井孝有・本会代表らが寄り添いました。

集会ではまず、山野井代表が「真相を広める会」として基調報告を行い、秋間さんを紹介した後、スパイ冤罪事件を掘り起した上田誠吉弁護士や、いち早く報道にあたった藪下彰治朗・朝日新聞記者（故人）らのジャーナリスト精神に触れ、後輩の記者たちの奮闘を期待し、暴走を続ける安倍内閣は打倒すべきだと訴えました。続いて秋間美江子さんが立ち、わずか5分間の中にも的確で気迫のこもった訴えを込めて挨拶、鳴り止まない満場の拍手を受けました。

「日本の将来に悔いを残すな」

「秘密保護法の危険性と安倍政権の暴走」について講演した岸井成格・毎日新聞特別編集委員は、国会・政局の裏表を詳細に明かして問題提起。長い記者生活でもかつて経験したことのない酷い法律だとして、日本の将来に悔いを残さないためにも絶対に潰すべきだと強調しました。

次いで60年安保闘争以来、日本の政治課題と労働運動に関わってきた戸塚章介・新聞OB9条の会事務局長は、今回の秘密保護法反対運動は、組織動員されたデモではなく、自然的自発的な運動になっていることが特徴だと鋭く提起、それが運動発展のカギであると強調しました。

山本玉樹・本会代表は、1999年のハーグ世界平和会議が確認した平和を求める世界の流れを情熱込めて紹介し、北海道大学構内に「心の会の碑」（仮称）を建設する意義と思いを熱く強調して、参加者に支援を訴えました。

「真相を広める会」3つの課題を提起

最後に「真相を広める会」が提起した①秘密保護法を廃棄させるまで運動を継続する②北大のスパイ冤罪事件にかかる宮澤弘幸に対する処置を糺し、責任を追究し謝罪を求める③「心の会の碑」（仮称）を北大構内に建設する――の3課題を支持するアピールを全員一致の強い拍手で確認しました。

なぜ2.22か、なぜ宮澤・冤罪か、新たな一歩へ



山野井 孝有・本会代表

びたび新聞、テレビからの取材も受けていますが、マスコミの役割は極めて重要です。

今日も新聞・テレビ報道に携わる若い記者のみなさんが取材されていますが、何よりも不正に対する怒りを燃やして、宮澤弘幸スパイ冤罪事件を引き起こす秘密保護法を廃棄させるために一層頑張ってください。

これまではどんなに悪法であっても成立すると運動も報道もトーンダウンする傾向がありましたが、昨年12月6日に強行可決された秘密保護法に対しては、その危険性を追及する報道が継続していることは、うれしいことです。ジャーナリストのみなさん、頑張ってください。

この間、宮澤スパイ冤罪事件を掘り起して追及した上田誠吉弁護士、朝日新聞の藪下彰治朗記者、秋間美江子さんの背を押した美江子さんの夫・秋間浩さん、宮澤弘幸さんの婚約者であった高橋あや子さん、これらの人たちはみな故人となりました。こうしたみなさんの努力を讃えるとともに、その遺志をしっかり受け継いでいくことが私たちの使命だと思います。

暴走する安倍内閣は打倒すべきだ

安倍内閣は、大企業優先で、高齢者の生活はどうでもよいという政策を進めております。NHK 会長や同経営委員などをお友達で固め、秘密保護法を強行可決させ、非正規社員をさら増やす派遣法改悪などを画策しているのです。

秘密保護法については、最近、新聞では「どこを修正すればよいか」という議論がありますが、修正ですむ法律ではありません。断固として「丸ごと反対、廃棄すべきだ」と思います。

安倍内閣は、さらに集団自衛権行使、武器輸出三原則の禁止から輸出への転換、教育制度改悪等々、あらゆる問題を反動的な方向に向けようとしています。60年安保闘争時には、「岸内閣打倒」を掲げました。今こそ「安倍内閣打倒」以外にないと確信しています。

今日午前中、北大の担当者が秋間さんに北大の取り組みを記した文書を手渡してきました。その内容は、秋間さんに対する誠意の一端は感じられますが、謝罪と責任についてはいっさい触れていません。「真相を広める会」としては、幹事会を開いて、今後の対応を検討し、北大に対しては毅然とした態度で対処していきます。

今日のつどいに、こうして多くのみなさんが参加してくださったこと、主催者として感謝します。

今日出席の秋間美江子さんは、1週間ほど前にドクターストップがかかり、来られない状態でしたが、「日本に行くことはもうないかも知れない」と思って、医師に頼んで、昨日デンプーから14時間かけて成田に着きました。今回は秘密保護法の廃止を訴えるために命がけで来られたのです。

前回日本に来たのは、2012年10月でした。「もうスパイの家族と言われるのは嫌だ。兄が遺したアルバムを北海道大学に寄贈して、兄がスパイとされた事件を忘れない」との思いからでした。この思いに共感した輪が広がり、「寄贈で終りにするのではなく、宮澤弘幸と家族たちの苦しみを広く訴え、北大生・宮澤弘幸を守れなかった北大に謝罪させるべきだ」となって、これが「真相を広める会」の結成に繋がりました。

結成は2013年1月29日に札幌で行われましたが、結成への第一歩となったのは、北大へのアルバム寄贈の後、ここ常圓寺で開かれた2012年11月12日の報告会でした。秋間さんも同席でした。さらに、2013年2月23日にも、ここ常圓寺で結成後最初の活動として「宮澤弘幸追悼・顕彰と秘密保全法を考える集い」を開催し、今日に至っています。

2月22日は宮澤弘幸の命日であり、常圓寺は菩提寺であり、私たちの運動にとっても大事な日であり場所となっています。

この間、「真相を広める会」の活動が広がる中で、た

「がん」より国の政治の方が怖いのです



秋間美江子と申します。親は、美しいという字と、江戸で生まれたのだからと言って、美江子と付けてくれました。親に勝る宝物はないんです。親というのは本当に常に、子どものことを心配している動物だと思います。

「親に先立つ不孝なし」という言葉がございます。でも、私の二人の兄は、それこそ親不孝だったんですね。親より先に死んでしまいました。それもむごい死に方をしました。（上の兄が刑務所から出てきたとき

は）本当に生きている人間だなんて思えなかったです。上の兄は網走の刑務所から宮城の刑務所に移りました。兄は本当に何も罪がなかったんです。それを（過酷な刑務所生活によって事実上）殺してくれたわけです。そしてその親を悲しませました。妹である私も悲しみました。

私には何も青春なんてなかったのです。どこに行っても黒い影がついているようで、怖かった。そして今言えることは、そんな人間を作ってはいけません。もう再びそんな時代がきてはいけません。ですから、みなさん頑張ってくださいね。私みたいな人間を再び作らないように。

私は幸せに 87 歳の今まで元気でおります。5回のがんの手術にも負けませんでした。もう本当は死んでいるはずの人間なんです。でも気力で生きています。

がんは怖くはありません。よっぽど国の政治の方が、怖いのです。みなさん、頑張ってくださいね。法案は通ってしまいました。けれども今からでも手遅れではないんです。ものに手遅れはないんです。お願いいたします。ごめんなさい。以上です。

質問に答えて 記者会見要旨

——（NHK・浜田）宮澤弘幸さんの墓前に手を合わせた時の思いを教えてください。

難しい質問です。父は、何もいいニュースを聞かずに亡くなりました。母の時には、冤罪だったことが少しは分かってきていました。母はここ（常圓寺）の山主さんに「仏門に入ろうかな」と言ったらいいのですが「あなたには、まだほかの子どもも旦那さんもいるんですよ。ご自分だけが逃げてよろしいんですか」と言われたそうです。それで私は浮かばれたんですね。最終的に私は、アメリカでありつただけの親孝行をしました。ですから先ほど手を合わせた時の涙は、本当はうれしい涙だったんです。

——先ほど親を思う気持ちを強調されましたが。

2月22日兄が亡くなった時、みんなでベッドの回りを囲みました。兄はそれまで「お母さん、三日経って良くなったら書くからね」と言っていました。

後日、マライーニさんから聞きました。兄は誰にも日本語で話さなかった。なぜならそのうちに書くからと言って。でも彼には全部言ったそうです。どんなことが自分の身に起こったのか、それを聞いた時に、マ

ライーニさんを恨んだってしょうがないんだけど、よっぽど嘔みつこうかなというくらいの気持ちがあったんです。兄は何も悪いことをしていないのに、どうしてそんなに苦しめられたのかと。もう思い出したくない。ごめんなさい。

——今日、大勢のみなさんが集まりました。

大変うれしく思います。「ありがとうございます」の一言です。今日だけでなくこれからも大変だと思うけど、頑張ってくださいと思います。

——（北海道新聞・立野）秘密保護法が成立した今の日本に来て、どのようにお考えですか。

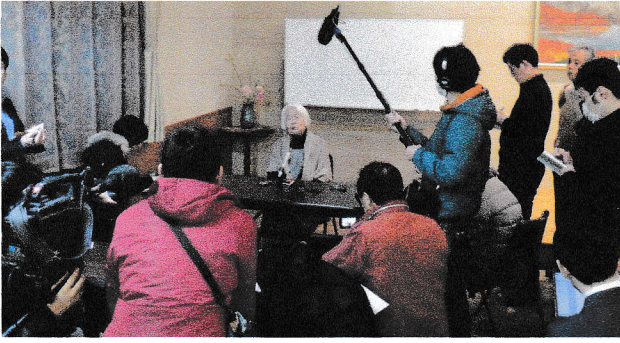
時遅くないと私思います。みなさんの力が強ければ撤回することができると思います。私一人の勝手な希望でしょうか。

——（朝日新聞・佐藤）秘密保護法について日本人たちに直接訴えたいことは。

世の中には無関心な人がたくさんいます。それが私にとってはとても悲しいことです。じゃあどうしたらいいのか。それができるのは皆さんです。みなさんがあきらめたらダメです。代表者ですから。

——秘密保護法と軍機保護法のどういうところが、共通していて、どこが危ないのでしょうか。

秘密、秘密、秘密と重ねていっては困ると思いま



す。それに対して誰も文句を言わないのは不思議だと思えます。もっとみんなが日本の国を愛して、日本をよくしようという努力をしてもらいたと思います。聞くことも自由で、話すことも自由に。そういう国になってもらいたと思います。

——（毎日新聞・青島）今回は医師に止められたのですか。

私のファミリードクターは、私よりも私の命を大切にしてくれている感じの方で、心臓の働きを診て悪いと言われました。歳をとるとだれでも不整脈があって当然ではと聞くと、いやあなたの場合は歳ではなく、何かストレスがあると言いました。でも私はアメリカで勝手な生活をしていますから、本当はストレスはないはずです。でも秘密保護法が通過したとか、「この法律を廃止してよ」ということはアメリカ人には言いませんから、それが自分の胸の中に渦巻いてストレスになったと思われま。

——もどかしいという気持ちですか。

そうですね。「もどかしい」ってとてもいい言葉だと思います。日本へ来るのを一度はあきらめたのですが、一週間くらい前に、医者で心臓も脈拍もいいというので「本当に日本に行きたい」と言いました。医者は「それほど言うなら」と同意してくれました。それで「帰ってくるまで保障してくれますか」と聞いたら「他の患者だったら言わないがイエスだね」と言ってくれました。

——（共同通信・錦織）「青春はなかった。どこに行っても黒い影がついているようで怖かった」とおっしゃいました。辛いでしょうが当時のことを。

詳しく話すとその時の状況が浮かんできます。とても困る質問です。ご自分の身になって考えてください。街を歩いていて、自分の後を曲がってもついてきたという思いは、あなたにはなかったでしょう。とても嫌なものです。特高警察には逆らえなかったのです。兄が捕らえられた時、東京の家にも家宅捜索に来ました。純日本家屋の天井を棒で全部突つくんです。埃だけで何も出てきません。日本語以外の英語、ドイツ語（の本）は全部壊していきました。2、3日して、顔は覚えていないけど、家に来た特高と同じ黒いコートを着た男が自分の後ろにいるということは、とても気持ちが悪いというか、怖いことです。今の私だったら怖くありません。後ろを向いて「何か御用ですか」と言えますけれど。そのころはそんなこと言う勇気もなかったし……。

2.22 つどいに参加された方々のご意見

秘密保護法は一刻も早く廃案に

戦前の軍機保護法、治安維持法時代を知っている世代です。現安倍政権の右翼化を最も恐れる一人として、一刻も早く廃案されることを希います。

秋間美江子さんお元気の間に、北大問題もすべて解決して欲しいと思います。

浅田喜久子（会員）＝山梨県山中湖村

尊重すべき秩序を破った結果の苦しみ

宮澤弘幸様の御家族の苦しみ、やっとなりました。スパイという汚名は苦しかったと思います。私は、戦争中は子供でしたので、わかりませんでした。戦前、戦中の日本は、ひどい国でした。それでも、誰も、国の秩序の中で生きています。いつでも、国とその秩序は尊重しなければならないのです。国を売ったと言われたら、その秩序を破ったと言われたこととなります。これでは、生きる場所を失います。尚、つどいで秋間美江子様からのチョコレート、いただきました。おしくいただきました。

小暮 成一（会員）＝調布市

秘密保護法は「権力犯罪」だ

私は終戦の翌年、1946年に北大に入学した宮澤さんの後輩です。レーンさんには教えを受けませんでした。ヘルマン・ヘッカーさんにはドイツ語を教えてくださいました。1950年に北大イールズ闘争があり、この時、北海道学連の委員長をしていて、北大から退学処分を受けました。

今、あのイールズ闘争も事実を歪められて伝えられています。私は「三鷹事件の真実にせまる」という本を出版し、最近まだ事件の真相が解明されていない「白鳥事件」を研究し、新たな立場で真相を追求する著述を始めています（最終的に出版できるかどうか分かりませんが）。

その立場でいうと「秘密保護法」は「権力犯罪」、権力による謀略にとってもっとも都合の良い法律です。絶対許すわけにはいきません。

老骨ですが、みなさんとともに廃止に向けて闘いつづけます。

梁田 政方（会員）

＝三鷹事件の真相を究明し、語り継ぐ会



秘密保護法の危険性と安倍政権の暴走

岸井 成格・毎日新聞特別編集委員

最初に、山野井さんはじめ、この問題に取り組んでいるみなさんに敬意を表します。理不尽かつ残酷に殺された宮澤さんのような事件は二

度とあってはならないし、その背景にある戦争は絶対に起こしてはいけません。

そのために日本は戦後、営々と憲法九条を先頭に平和国家として、平和外交をしてきた歴史があります。それを守っていかなければなりません。そういう中で成立した特定秘密保護法は何としても廃止させなければ、宮澤さんにも秋間さんにも顔向けできないという気持ちを、いま新たにしています。

中立・公正・公正とは何か

国会、政局は変な空気が横溢しています。NHK 会長が、盛んに「放送法を守ります。中立・公正・公平を守ります」と言っていますが、メディアの役割、ジャーナリストの使命は、権力を監視しチェックして、批判すべきは批判することが仕事です。よく誤解されますが、民意で選ばれた政治家は国民の代表ですが、チェックしなければならないのは「多数の横暴」です。そして権力は必ず腐敗しウソをつく。これをチェックしていくのはメディアの役割であり、ジャーリズムの使命です。それをやらなければ、中立でも公正でも公平でもないのです。

NHK の 2 人の経営委員、衛藤総理補佐官の言動は常軌を逸しています。昨日開かれた会合での元外交官などの話で共通していたのは、諸外国は安倍首相の靖国参拝に加えて、ブレーン、側近、NHK 会長らの言動は、日本人全体が右傾化していると受け止めています。その結果、日本は国際的にどんどん孤立化してきています。

国会・政治の大きな問題は、集団自衛権行使容認の問題で、総理は「最高責任者は私です。法制局長官ではありません。私は国会議員によって選ばれた。国民の審判を受けるのは私です」という言い方で強気の姿勢を示しました。この根底にある問題は、国会議員は立憲主義を分かっているのかということです。内閣法制局は今でも全体としては、集団自衛権は容認できないという立場です。

戦後の日本は、日米安全保障条約でアメリカの抑止力に依存することで凝り固まってきたのですが、このところ変わってきました。一つは対米従属的な日米安保

で、これからのアジア太平洋新時代の中でやっていけるのか、という議論。もう一つは、特に保守系に強いのですが、最近のアメリカは経済力も弱くなってきた、だからアメリカに頼らなくても、日本は日本が守る、という主張です。これは、最後は核武装論まで行きます。自力で守る、軍事力抑止論に立つとそうなりません、一番怖いところです。

こうして戦後の憲法 9 条、武器輸出三原則、非核三原則、集団自衛権不行使などがすべて崩れ始めてきたということです。そして東京都知事選では憲法改正などを主張した候補が 60 万票も獲得し、安倍内閣の支持率が高い。こうなると世界から見ると実に厄介です。

実は秘密保護法を強行可決した後、内閣支持率は 10 ポイント近く落ちた。ところが安倍首相が靖国神社参拝後は、支持率が盛り返したのです。広報のプロが、「支持率回復には参拝するしかない。中国・韓国には強く出るべきだ」と煽った可能性が高い。今の若い人たちに、これを是とする傾向が強い。

支持率の高さは、アベノミクスによる経済効果への期待が企業をまだあることと、もう一つはナショナリズムです。中国や韓国に強く出れば出るほど、またアメリカに対し強く出れば出るほど、支持率を高める恐れもあります。私が知る限り、支持率に関しては新しい傾向です。要注意です。

定義を曖昧にし、拡大解釈可能に

秘密保護法は成立しましたが、何としても廃止に追い込む、追い込まなければなりません。集団自衛権はじめあらゆる問題の共通項に、「物事の定義を曖昧にすること」があります。何を聞かれても一般論、抽象論で逃げて定義を避け、解釈をいくらでも拡大できるようにする。

集団自衛権の答弁でもそうです。秘密保護法は最たるものです。最初は外務・防衛について重要な安全保障にかかわる情報と言っていたのにテロが、そしてスパイが入った。外務・防衛・テロ・スパイ、それに重要は安全保障に係る情報となった。

さらに情報を収集した能力も秘密で、「その他」、「その他」がすべての条文についています。つまり何でも秘密に特定できます。

長い政治記者生活の中で、こんな酷い法律と、こんな酷い国会を見たのは初めてです。そのくらい酷い法律です。意図的に、どんな場合でも拡大解釈ができます。なぜそうなるかを考えると、宮澤・レーン事件が示している通りです。できるだけ法の網を広くし、だれでもひっかけられるようにする、何処でも家宅搜索

ができるようにする、盗聴ができるようにする、事情聴取が簡単にできるようにする内容になっています。

裏に潜む警察・検察権力

秘密保護法でもう一つ大きいのは警察です。主務官庁は外務省でも防衛省でもなく内閣情報調査室です。つまり警察、その裏に検察があります。権力は、最悪を想定して体制を固めます。「何が秘密かは秘密」なんて冗談ではありません。今でも特別管理秘密は 43 万件もあります。これにさらに特定秘密を作って罰則の対象にするのは何のためかはいっさい説明していません。百歩譲って、少なくともそうした説明があって、国民が納得する安保・外交関係の著しい変化があるのかがはっきりすれば、秘密保護の必要性が出てくるかも知れません。今のところそれは分かりません。

わずかに出てきたのは北朝鮮の核ミサイル問題です。北朝鮮はミサイル実験発射をやった。それを分析すると、ハワイ、グアムには届くまでに性能が向上した。核実験では小型軽量化を遂げた。この結果ハワイ、グアムまでは届く核弾頭搭載ミサイルが可能になった。次の段階は、これが発射された時、誰がどこで撃ち落とすのか。一番近い東京へは5分で届く。撃ち落とすには在日米軍か自衛隊ということになり、そのMDシステムが同時進行している。軍事の怖さはそこから出

てきます。北朝鮮は飛ばした以上、アメリカが報復することを想定に入れています。その報復が在日米軍と自衛隊からとなると、北朝鮮はアメリカにミサイルを発射すると同時に、在日米軍と自衛隊にも先制攻撃を仕掛ける。そして、そうなると予測されるなら、北朝鮮が撃つと分かったら、こちらから先制攻撃すべきとなる。まるでいたちごっこ。これが、現在の軍事議論の底流です。

中国は毎年 10%を超える軍事予算の増大で軍拡しています。そこに尖閣列島問題があり、韓国とは竹島問題、ロシアとは北方領土問題が絡みます。こういう問題にどう対処するのかの説明が一切なしでの秘密保護法を認めるわけには行きません。国会ではそこまでの議論を一切していません。

秘密保護法は絶対に潰そう

時間が経てば経つほどこの法律のおかしさ、杜撰さ、危険性が出てきています。ですから、時間をかければみな分かってしまうから、分からないうちに成立させてしまったのだとしか考えられません。

冒頭申し上げましたように、日本の将来に悔いを残さないためには、秘密保護法は絶対に潰す、廃案にすること以外にないという思いを新たにしていることを申し上げたいと思います。

憲法9条を守り秘密保護法廃棄への運動

戸塚章介・新聞OB9条の会事務局長



秘密保護法反対運動は、10月15日に国会へ上程されて以後、急速に発展しました。60年安保を経験した世代から見ると、安保闘争の再来という感

想、感激を持った人が多かったと思います。

安保闘争時は、新聞労連でも朝日新聞労組が96時間ストを打つなど、新聞労働運動が非常に盛り上がり、最盛期には安保反対デモに1000人以上も結集しました。労働者たちも頑張りましたが、それを支持し、回りで支えた国民の大きな運動があったわけです。それが60年安保だったと思います。

ただ半面、結集の中身にはかなりの部分、組織動員だった、日当や弁当を出さず組織動員だったという事実も否めません。

ところが現在、日比谷野外音楽堂を埋め尽くした参加者に、組織動員された人はいません。秘密保護法反対運動に参加している人々は自主的に、個人の思いで

参加しているのです。私は国会を包囲する反原発行動にも何回か行きましたが、あそこにも動員されている人はほとんどいません。インターネットやメールで情報を交換して、乳母車を押した母親たちも、みんな自分の意思で参加しています。私はこのことがすごく大事だと思います。

戦争になると個人の意思は、否定されます。かつての戦争当時、「俺は死ぬのは嫌だ」なんて言ったら非国民でした。国民として存在すら許されませんでした。だから憲法13条では「すべて国民は個人として尊重される」とあります。ちなみに自民党改憲案では「全て国民は、人として尊重される」とあり意識して「個」が抜かれています。「個人」と「人」では全然違います。「人」という一般論で尊重の範囲を広げてしまえば、何の事かわかりません。憲法としての拘束力もなければ効果もない。「個人」として尊重されるという規定があるから日本国憲法の光り輝く条項の一つになっているのです。

このように、秘密保護法反対の集会やデモに行った人たちは、個人として行き、個人として行ったことが

集団の中で生かされて、それが団結してより多数の意思表示になっているのです。

昨年春、反原発で国会周辺に5万人、10万人と集まりました。それが先週の金曜日の参加者は2300人だったと報道され、「昨年と比べて少ない。やはりダメじゃないか」との見方がありますが、1年経った今も続いている事実が素晴らしいと思います。個人の意思で集まっているから続くのです。

これから運動を大きくしていく場合、個人の自然的自発的エネルギーに依拠していくことが大事だと思います。いま労働運動もユニオンショップ制から個人加盟の個人の意思で参加する労働運動へと変わりつつあります。先の都知事選で舛添候補の当選を報道したテレビ画面の中央にいたのは東京電力労組出身で東京連合の会長でした。労働組合はそうってしまったのです。

個人の自発的エネルギーに依拠した労働運動がいま、必要になってきています。秘密保護法反対の集会やデモに若者が少なかったことは事実ですが、その若

者たちの中で、月一回、新宿で200人か300人の「国防軍反対デモ」がもう13回も行われています。自分たちの未来を創っていくために何かやろうという若者たちがいます。一方、若者のナショナリズムを掻き立てる右翼的な潮流もあります。

自発的エネルギーを結集した草の根民主主義を総結集した闘いが必要になってきます。社会的にみて、それが具体的に可能になってきています。例えばチュニジアでおこったジャスミン革命は、紆余曲折はありますが、黙っていた民衆が大衆デモという形で政治の変革を行っています。

秘密保護法反対運動をきっかけとして、こういう運動ができるような時代になっていることを確信したいと思います。現役の労働者にも頑張ってもらいたいが、その方向性は、動員された押し付けられた運動ではなく、個人の意思とエネルギーが尊重されるような、憲法13条が生かされるような団結なんだということをおみなさんと一緒に、これからの運動の確信にしたいと思います。



「心の会の碑」(仮称)建設運動について

山本玉樹・本会代表

宮澤弘幸が「スパイ冤罪事件」と闘ったのは、クラーク先生以来の北海道大学の教育思想の大きな勝利だったと申し上げたい。彼は左翼的な思想を持っていたわけではありません。しかし真理に拠って立つ自主独立の自修心は札幌農学校が一貫して追求してきた教育思想です。

戦争は嘘によって成り立っています。1931年の日本軍の柳条溝・満州事変、1965年のアメリカの北爆、2003年のアメリカのイラク戦争——。みな開戦理由はウソでした。「ウソ＝偽」によって始まる戦争の本質に対して、これを絶対に肯んじず、嘘を認めない生涯を貫いたのが、宮澤弘幸だったと思います。

いま政府は、戦争できるようにと必死になっています。戦争への道は本当に世界の大勢でしょうか。1899年にオランダのハーグで、第1回ハーグ国際平和会議が開かれました。その100周年を記念して、1999年5月にハーグ世界平和市民会議が開かれ、世界から1万人以上の人々が参加しました。その最後に「公正な世界秩序のための10の基本原則」が発表されました。その第1項は「各国議会は、日本国憲法第9条のような、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択すべ

きである」とあり、第9項には「平和教育は世界のあらゆる学校で必修科目であるべきである」とあります。

この会議に参加した私は本当に感動しました。アフリカのツツシ教は「人類は奴隷制とナチスのファシズムを崩した。アパルトヘイトも廃止した。もしみなさんが心をつなげて本当に闘ったら、戦争のない平和をつくることができる」と訴え、「平和＝イエス」「戦争＝ノー」の声が沸き起こりました。日本の憲法9条は、人類の未来を照らす光であることをこの集会は確認したのです。これが平和を求める世界の流れです。

これに対し自公政権は、世界の趨勢に逆行しています。私達はこの流れを絶対に許してはいけないと思います。沖縄では、1月19日の名護市長選で辺野古への米軍基地移設に反対する稲嶺進候補が圧勝しました。そしてその先には、日米安保ではなく日米平和条約締結を目指していかなければなりません。

アメリカでも平和を希求して闘っている人々がたくさんいます。団結しなければいけないと思います。

人間として真つ当に生き抜いた宮澤弘幸の生涯を讃え、北海道大学構内の外国人教員官舎跡の林の中に、「心の会の碑」(仮称)を建て、戦争に反対して闘った先輩たちの精神を後々まで伝え、人類の未来を拓く学問、研究、人間を育て、そういう思想が泉の如く湧き上がるよう誓う碑を建設したいと思います。ご支援をお願いします。

悪夢再来の秘密保護法を許さない

「宮澤弘幸 追悼・顕彰 2.22 のつどい」アピール

73 年前、「スパイ冤罪」（軍機保護法違反）で懲役 15 年を科され、27 歳で命絶たれた北海道帝国大学生・宮澤弘幸が眠るここ新宿・常圓寺に結集した一同は、冤罪を闘い抜いた生涯を追悼・顕彰するとともに、すべての国民に向け、「スパイ冤罪」の悪夢再来を断つために秘密保護法の施行を阻止し廃止させるために立ち上がることを訴える。

秘密保護法は、憲法違反に加えて、当事者が家族共々「国賊風評」にさらされる残虐性を帯びている。現に宮澤弘幸の妹・秋間美江子さん（87 歳）は、1980 年代の「国家秘密法」阻止で立ち上がるまでは「スパイの家族」とされ、息を潜めて生活していた。しかし悪夢再来の危機に際し「スパイとその家族の苦しみを繰り返させないで」と国家秘密法阻止を訴えた。

昨年 1 月、秋間さんの思いを共有した有志が「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」を結成し、折から安倍政権が画策していた「軍機保護法」再来の「秘密保護法」阻止に行動を起こした。法案は国会で多数を占めた自民・公明によって強行可決されたが、廃止を求める運動は、かえって日に日に高まってきている。悪夢法の施行を許してはならない。必ず廃止させよう。

ここに、「宮澤弘幸追悼・顕彰 2.22 のつどい」に結集した一同は、宮澤弘幸の無念を引き継ぐ秋間美江子さん同席のもと、秘密保護法廃止を求める全国の人々と共に決意を込め、「真相を広める会」が提起している以下の行動を支持する。

第一、秘密保護法を廃止させるまで断固として行動を継続する。「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を徹底して広め、悪夢阻止につなげる。宮澤弘幸らが一斉検挙された 12 月 8 日には札幌で、命日の 2 月 22 日には東京・新宿で、集会と行動を継続する。

第二、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」に際して北大当局がとった学問の府、教育の府、クラーク精神に基づく建学の精神にもとる処置を糾し、その責任を追及し当事者への謝罪を求める。

第三、戦前、北海道大学で外国人教師と学生とが交流・研鑽をつちかした「心の会」の精神を現代に生かし未来に伝えるため、顕彰碑「心の会の碑」（仮称）の建立を期し、広く賛同を求める。

以上

2014 年 2 月 22 日

「宮澤弘幸追悼・顕彰 2.22 のつどい」
参加者一同

<事務局から>

◆12 月 8 日北海道大学内で初めて開催した「もうひとつの 12 月 8 日」には 120 人、常圓寺での 2.22 のつどいには 140 人が参加しました。宮澤・レーン「スパイ冤罪事件」の真相を広める活動は着実に進んでいます。北大OBのみなさんも立ち上がりました。2.22 つどいの会場では 6 万円のカンパに加えて 19 人のみなさんが入会し、会員は 279 人となりました。「真相を知って欲しい」「冤罪の構図」「引き裂かれた青春」「北大の処置と対応」の 4 冊のパンフレットは、スパイ冤罪事件の真相解明と運動方向を明確にする内容となっているため、まとめて出版する計画を進めています。

◆2.22 のつどいを取材した新聞・テレビの記者たちは、私たちの子ども世代です。若きジャーナリストたちの真相を追求する取材姿勢は、誤った歴史認識に凝り固まっている政治家たちを変えていく大きな力になると思います。今後の活躍に期待して激励していきたいと思います。

◆1 月 24 日に発足記者会見をした「秘密法に反対する全国ネットワーク」は、25 都道府県 49 団体が参加しています。「秘密保護法を許さない」の運動が確実に広がっています。4 月 6 日は名古屋で交流集会が開かれますので本会も参加して訴え、パンフレット「引き裂かれた青春」を宣伝・販売する予定です。

◆北海道大学の処置と責任を追及し、「心の会の碑」（仮称）建設を実現する運動は、秘密保護法廃止と並ぶ本会の二大目的です。秋間美江子さんの願いをしつかりと受け止め、山本玉樹代表の熱い思いと決意を共有して、大きな運動にしていきたいと思います。

◆秋間美江子さん 87 歳、山本玉樹代表 85 歳、宮澤弘幸命日の 2 月 22 日が誕生日の山野井孝有代表 82 歳。「真相を広める会」は、11 人の幹事のうち 6 人が後期高齢者です。あの戦争を経験し、または戦後の苦難の時期を知っている私たち高齢者は、今こそ戦争反対の声をあげ、行動し、訴えて、戦争への道を阻止しようではありませんか。「負けてたまるか」を合言葉に一緒にがんばりましょう。（事務局長・福島 清 75 歳）